

平成30年6月 災害の国日本。先人は苦難を乗り越えてきた。

心せよ。災害は恐しい。だがそれも更に怖がるべきものは

国民精神の頹廃であり。民心の弛緩である。

(災害よりも恐るべきは国民精神の頹廃である) 関東大震災の教訓

国家の損失極まれり

公文書書き換え

財務省は国有地売却問題をめぐり売買決議に関する14文書を書き換えていたことを認め、これを国土交通省と会計検査院を感じていたという。中央省庁が不正を働き、見て見ぬふりをしたという。国が根底から揺さぶられていると言っている！政権は役所を信じ、その答弁書で、説明しているのであるから、事実と違う答弁を続けてきたのであり、結果として、国民の信頼を傷つけたことになり足を引っぱるようになっていっているのである。日本は北朝鮮の核危機という国難に直面しており、その時政権が国民の信頼を失うことが、いかに国家の危機か、安倍首相、心して対処せよ。

頭越しの米朝会議

どこまでトランプが朝鮮を理解しているか、まったく不確実の中で、北と組もうとする文の策略で会談への方向で進んでいる。安倍政権は、森友学園問題の紛糾で、国内の安定どころでないのが現実。誰が見ても、トランプが北朝鮮の核問題について、深い知識と歴史的な流れについて深い知識を持っているとは、とても思えない、専門家は北の術中にはまるとの懸念も指摘される。日本の外交努力で更なる米側との連携を強める必要がある

民法相続税の見直し

配偶者に居住権新設

民法の相続税分野の見直しを進めている法制審議会の部会は本年一月十六日遺産分割の際の選択肢として、残された配偶者が終身、あるいは一定期間、遺産に含まれる家に住み続けることが出来る居住権や、自筆の遺書を法務局で保管できる制度の新設などを盛り込んだ改正要綱案を了承した。遺産分割が終了するまで、配偶者が無償で家を使用出来る短期間の居住権も設ける。婚姻期間が二十年以上の夫婦の場合配偶者が生前贈与や遺言で与えられた家は、相続人が遺産分割で取り分を計算する際の対象から除外する案も盛り込んだ。現行では、公正証書遺言は公証役場で保管出来る一方、自筆遺言書は弁護士などに預けるか、自分で保管する必要があった。案では、法務局での保管を可能とし紛失や改ざんを防ぐ。故人の看護などで遺産維持に貢献があった相続人以外の親族が、相続人に一定の金銭を請求できる制度も設ける。本当に故人を愛した人への思いやり制度だ。

品川の学校見てきた

誰でも義務教育は六三制と戦後の制度になじんできた。今、小中一貫校の流れの中で、小中、幼保一貫まで、教育多様化が進んでいる。品川区は早くこれを取り入れ、全区小中幼保一貫を目指し取り組んでいる。せぬまはその品川の新しい区立学校に行ってきた。品川の豊葉の杜学園は四三二制として、四年生に責任を、六年生ははじめを、七年生はつなぎを、九年生は下級生の指導をと、上手に生徒達に、誇りと、責任を与え、効果が上がっているという。クラス替えは毎年必ず行い、新しい友達をつくるようにしている。四三二制の良し悪しの議論を足立区はどこまで取り入れるか。

生命尊重の教育を

優生保護法が施行され、母体を守る、生命を大事にすることと、中絶は年間十八万人もいるのだ。学校では生命の大切さを教えているが、どちらかと言えば、避妊を優先して教えることが多い。親と子が生命をつないでゆく心をおしえるべき。

区民生活政務調査依頼 足立区政でお気付の事、町の中のこと、学校のこと
せぬま 剛へご意見をどうぞ、足立区へ提案します

氏名 住所 ご記入の上

足立区政務調査事務所

090-4073-5145

せぬま 剛

足立区千住宮元町10-1

祝日には国旗を掲げよう

国旗販布・取付お申込はせぬま 剛へ

平成30年6月 縁あって住む足立区人口は68万人を超えた。

江北地域が変わる

女子医大病院を足立区江北へ移転する準備が進んでいる。都住跡地を足立が買う予算七十億円が目途もたった。江北駅から、建設予定地への道路を何とかしたいものと、その利便性向上に向けて、当該の土地の方々には、その拡幅に向け何軒か、ご協力を頂かねばならない。人の為とはいえ、当事者にとっては、迷惑な話であり、大変な事である。是非共善意の円満な解決が出来るよう誠意ある対応が必要である。

高野小と江北小

この二校を統合して、その中間に新校をつくる案が出ている。生徒は共に利用しやすくなるが土地は、病院の隣が適地としてあり、これの活用が計画されている。江北小跡地は排水場の近くにあり、災害対策に活用すべきと考える。高野小跡地は、都の給水場隣地であり、これとの連携や、地域の方々の利便、環境に配慮した活用が求められる。

竹ノ塚高架工事遅れる

順調に進んでいた、竹ノ塚高架上り線の工事に取り掛かりだした。前の線路を撤去し、基礎工事をしようとしたら、地下に二千本の鋼杭が埋設されていたというのだ。今更それが分かったというが、何やら信じ難い話だ。この工事は常に電車が走らない夜間に行うので、この杭を抜くだけで、一年以上もかかるという。当然高架工事は一年以上遅れるということになった。東武は謝罪し、少しでも早く完成をと、全ゆる努力をするというが。

綾瀬交通公園廃止

綾瀬地域の皆に親しまれてきた交通公園が、綾瀬小の建て替えて、代替え地となり、平成三十年八月廃園となることになった。想い出の施設を惜しむ人も、多くいられるので、サヨナライベントを考えている。

北綾瀬駅始発電車

千代田線は、北綾瀬駅から始発を計画し、ホームの延長、駅ビルの建設、駅前広場の設置を計画している。広場は当初しようぶ沼公園をと言っていたが大事な公園を壊させないよう、区へ提言し、区は環七北側を今地元と話し合い中という。何とか円満に解決してほしい。

千住大踏切解消へ

せぬま剛は議員になる前から、大踏切の解消を区に言い行動してきたが、鉄道事業者の勝手な計画に、足立区は何の手も打てず、今の形にとなつてしまった。複雑に交差してしまつた。線路の実態どうにもならないうのが結論となつた。それでは、地下通行、アンダーパスはどうか、踏切道路下には、旧千住堀という川が存在しており、工事不可だというのだ。

中野部長の勇断

当時の土木部長と作戦を立てて、工事の可能性をあたつた。困難をきわめたが何とか川を迂回させて、切り回して、地下化が可能との結論を出させたのだ。しかし、それからも当時四十億程度といわれた予算はつかず、その後の調査もされず、千住の人々は、もう不可能の印象を与える年月となつていく。

大踏切解消署名運動

区は、電機大が出来れば、工事の拠点が出来ると言つたので、地元の人々も各町会長、商店会長等の方々に、可能性0ではないと説明し、皆様から署名を頂きました。署名の段階でも、疑心暗鬼の方もおりますし、この署名で、足立区にアンダーパス促進をと、陳情致しました。区議会の中でも工事費の問題や必要性の問題や、本当に可能なのかと質問が出来ます。更なる活動をし、実現へ努力します。

足立区政務調査事務所

090-4073-5145

せぬま 剛

足立区千住宮元町10-1

祝日には国旗を掲げよう

国旗販布・取付お申込はせぬま 剛へ

めぐみへの手紙

横田 満
横田 早紀江

あなたの大好きな日本の夏 普通の日々が幸せでした

めぐみちゃん、こんにちは。日本は夏を迎えましました。緑は濃さを増し、あなたの大好きな花々がいっぱい咲いています。ああ、懐かしいめぐみちゃん！

つながる線は、人が簡単にえられた、本当に不思議なつくることが出来るもので有り難い贈り物だと思います。この絆は天から与

今、どこにいますか。外の空気をたくさん吸い、自然の風に当たれていますか。40年間、姿が見えない毎日。朝鮮半島では不安な状況が続いています。いつも「どうしているかな」と、あなたのことはかり考えます。

「家族の絆」という言葉があります。ご先祖がいて、私たちがいて、子供たちにつないでいく。延々と



両親の横田滋さん(左端)、早紀江さん(右端)や双子の弟、拓也さん、哲也さんと写真に納まっためぐみさん(昭和49年ごろ、広島市内(提供写真))

めぐみちゃん、お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、みんながいて、弟の拓也と哲也がいて、お父さんとお母さんがいる。私たちは日本のどこにでもいるような、普通の家族でした。その普通の日々が私たちに与えてくれた、本当に不思議な絆。今、しみじみ感じます。

めぐみちゃん、お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、みんながいて、弟の拓也と哲也がいて、お父さんとお母さんがいる。私たちは日本のどこにでもいるような、普通の家族でした。その普通の日々が私たちに与えてくれた、本当に不思議な絆。今、しみじみ感じます。

毎月、拉致被害者救出の会や、家族励ます会にせぬまは参加。

とうとう、横田滋さんは床に座るともう自力で立上がれなくなった。

息子さんの手を借りなければならず、早紀江さんの介護疲れが

ひどくなってきた。飯塚代表も会う度に疲労度が増し

被害者を待つ家族の絶望感が伝わってくる昨今である。

北朝鮮を認める人達の心ない言葉は日本人とは思えない。

自国民の救出に行動出来ない日本の憲法の無力を難くばかり。

自分の身内だったらどう思うのか、同胞とは何なのか、思いやりの心を

日本人として持ち続け励まし、思いを共有し、国の勇断を望む！



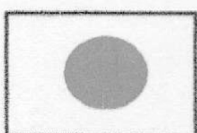
めぐみちゃん、お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、みんながいて、弟の拓也と哲也がいて、お父さんとお母さんがいる。私たちは日本のどこにでもいるような、普通の家族でした。その普通の日々が私たちに与えてくれた、本当に不思議な絆。今、しみじみ感じます。

足立区政務調査事務所

090-4073-5145

せぬま 剛

足立区千住宮元町10-1



祝日には国旗を掲げよう

国旗販布・取付お申込はせぬま 剛へ

引用：産経新聞「めぐみへの手紙」より